

ひがし

No. 227

'54 10 / 20

広報

しらかわ

人口の動き

—9月末住民登録 人口から

世帯数	952	世帯
人口	3,831	人
転入	7	人
転出	4	人
出生	0	人
死亡	5	人

先月と比較して 2人減
昨年と同月と比較して 42人減

■ 発行 岐阜県加茂郡東白川村 ■ 編集 / 企画広報課 ■ 印刷 / 関市中部印刷

盛大に 最後の運動会

村内の各小学校
で最後の運動会が
行われました。

消防団、婦人会
青年団、老人クラ
ブなども参加し、
最後の運動会にふ
さわしい盛り上が
りが見られました。

—9月10日神土小学校で
関連記事・写真 8～9ページ

主な内容

- ラジオ体操を推進しよう
.....P 2~3
- 図書室オープン.....P 4
- 東白川小の校章決まる.....P 5
- 歌舞伎公演のもよう.....P 6
- 第5回老人まつり.....P 7
- 各小学校運動会のもよう
.....P 8~9
- 五加婦人会が消火器講習...P 10
- 第14回村民親ほくソフトボ
大会.....P 11
- 赤い羽根共同募金.....P 12
- 村誌編さん室だより.....P 13
- トピックス.....P 14
- けいじ板はP 2~3の下欄





胸いっぱい — 神土小学校校庭で —

実態調査から

健康づくりのひと役 ラジオ体操を推進しよう

ラジオ体操はこれまで、児童・生徒の規律と健康づくりを目的として行われてきましたが、ことしはその輪を広く一般の皆さんの中へも広めようと「村民夏季ラジオ体操の会」をつくり、ラジオ体操の推進を図ると同時に実態調査を行い、このほどその結果がまとまりました。

村内35会場を巡回

参加者など調査

実態調査は八月二十日から二十五日までの夏休み中に行

われ、村内三十五か所の会場を対象に体育指導委員・体育推進員・青少年育成推進員など二十七人の調査員が巡回して調査したものです。

調査の内容は①各会場の参加者数(年代別)②集合状態(定刻までに集合しているかどうか)③体操の状況(基本に従って行っているか)④リーダーがあるか⑤会場の環境はどうか——などです。それでは、順を追って結果をみてみましょう。

全体で二五%の参加率
少ない一般と高校生

村内でラジオ体操に参加することができる人が何人いるか——。教育委員会が割り出したところ約二千人になりました。この数字を基本に計算すると、調査期間中に会場へ出向いて実際にラジオ体操を

■ 戸籍の窓(十月)



おくやみ
申しあげます

- 今井マスノ 90歳(大沢)
 - 安江 卓郎 68歳(日向)
 - 青山 正成 76歳(平)
 - 今井 善造 72歳(下野)
 - 安江 弘 60歳(上親田)
- 善意の寄付—敬称略—

(東白川中学校へ)

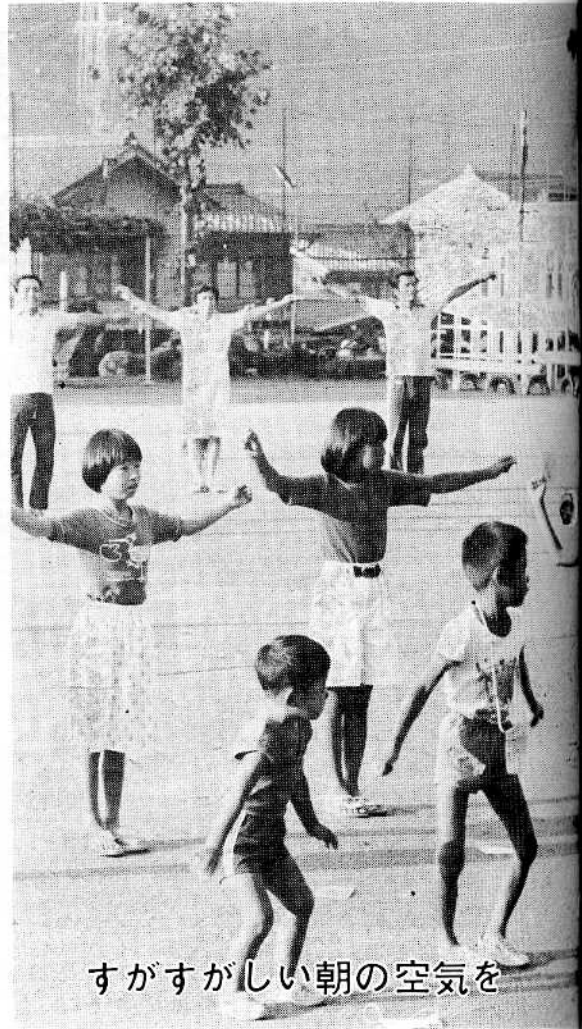
- ほりき 二十本 老人クラブ
- ぞうきん 五十枚 プ長寿会
- 書籍「日本のポットホール」
- 一冊—伊藤隆吉へ

(社会福祉事業費へ)

- 現金十万円
- 上親田 安江兼広
- 現金二万一千五百円
- 立正佼成会中津川協会
- 加茂支部

■ 教育委員の再任

去る九月二十六日に招集された村議会で、任期満了に伴う教育委員の選任について同意が求められ、田口耕作氏が再任されました。



すがすがしい朝の空気を

年間を通して 続けよう

調査期間中には天候の悪い日もありましたが、子供連れで会場へ駆けつける婦人や、散歩の途中に立ち寄る人もみかけられました。

朝のラジオ体操は、体調を整えるとともにすがすがしい気分にくれます。車社会の中で日ごろ運動不足がちな人たちこそ、この機会を見逃すことなく積極的に参加してほしいものです。

現在、村で企画され実施されている健康づくりのためのスポーツは、だれでも参加できるとはいえ、お年寄りや小さな子供たちは参加できない現状です。

ところが、ラジオ体操は子供からお年寄りまでだれでも、いつでもできるものです。そのうえ場所をとらずに、そうした意味から、ラジオ体操推進は村ぐるみの盛り上げが大切です。

夏季に限らず一年を通じて続け、健康づくりの一助としてみんなでその輪を広げて行きたいものです。

■児童手当月額が 六千五百円に

児童手当は、三人目以降の児童一人につき村民所得割のある者に対して月額五千円、所得割のない者に対して六千円支給されていましたが、児童手当法の一部改正によりこの十月分以降の支払いは、村民税所得割のない者に対する月額が六千五百円に引き上げられることになりました。

なお、該当者へは額改定通知書が送付されます。

■お祝い電報はお早めに —電々公社から—

秋の結婚シーズンを迎え大安や週末の電報受付「局番なし一一五番」は祝電のラッシュ。

こんなとき、混雑をさけて十日前から予約することができ「配達日指定電報」をご利用ください。

この電報をご利用いただく、披露宴の席にタイムリングよくお届けすることができます。そのほか、配達日の三日前までにお打ちになる百五十円の割り引きにもなります。

つけることが大切だといえるようです。

早期改善が望まれる 危険な会場

この調査では、放送器具の取り付け状態や音量、それに自動車などによる危険がないかなど各会場の環境についても調べました。

その結果、放送がよく聞こえなかった会場が五か所、また、道路の近くを会場にしているため、交通の危険な会場が五か所もありました。とくにこのうちの三会場については危険度が高く早期改善が望まれます。

(三十五会場のうち二十六会場(七四%)にリーダーがいました。今後は小学生の高学年や中学生などをリーダーとして、各会場をまとめて行く必要があるといえます。

まず基本を 身につけよう

体操の状態を全体的にみると、小・中学生は基本に忠実に行っていましたが、保育園児や一般では思い思いの体操をしている人が目につきました。

保育園児は別にしても、一般の人たちはまず基本を身に

行った人は全体で五百人(二五%)と低い値です。(この調査は会場での実態を調べたものですから、自宅で有線放送を聞きながら実施している人は除かれています。)年代別にみると、小学生(七五%)、中学生(六〇%)と高い参加率が出た反面高校生(一〇%)、一般(七%)となっており、一般や高校生の参加が少ないのが目立っています。

26会場にリーダーあり

各会場で先頭に立ってみんなの手本となる「リーダー」があるかどうか調べたところ

待望の図書室オープン

ホールと一体の多目的スペース

お気軽にご利用を



市民センター4階のテラスを改造して作られた
図書室を兼ねた多目的ホール

「村にも図書室を——。」という村内の皆さんからの強い要望に答えて、このほど市民センター4階に図書室を兼ねた多目的ホールが完成しました。

14サークルが

地道な読書活動

十年ほど前には、私たちがいろいろな情報を得る場合に本を読んだり新聞を読んだり

することが主体で、公民館内に設けられた図書室は利用者が多かったようです。

ところが、時代とともにラジオ・テレビが普及し、見たり聞いたりして情報を得る時代へと変わってきたため、以前

のように図書室を利用する人は減り、いわば自然消滅の形で村内には図書室らしきものは見当たらなくなりました。

一方、村内には県立ひばり号の巡回図書を利用しているサークルが十四（会員数二百人余り）あり、図書室なきあとも地道な読書活動を続けています。

余暇活動の重要性が叫ばれる今日、スポーツ活動と同様文化活動も重要視され、その一端である読書活動が大きく注目されてきました。

村ではこうした現状と、皆さんからの要望に答えてなんとか図書室を——と計画を進めていきましたが、場所・予算などの問題もあり実現が遅れていました。

こうした中で、読書サークルをはじめとする皆さんの声が議会できり上げられ、市民センター4階のテラスを改造して図書室と談話室を兼ねた多目的室を作ることが決定され、工事費二百万円余りをかけてこのほど完成しました。

貸し出し日は週一回

一人に三冊まで

図書室には約千冊の図書が

用意され、このうち貸し出しできるのは約五百冊です。貸し出しできない本の中にはブリタニカ百科辞典など良い本もそろっているため、閲覧という方法で皆さんに親しんでもらいたい考えです。

貸し出し日は週一回（金曜日）、午前十時から午後六時まで教育委員会の職員がこの事務にあたります。また、一人に貸し出しする本の限度は三冊まで、返済までの期間は二週間。ただし、読書サークルの代表者へは二十冊まで貸し出すことができます。

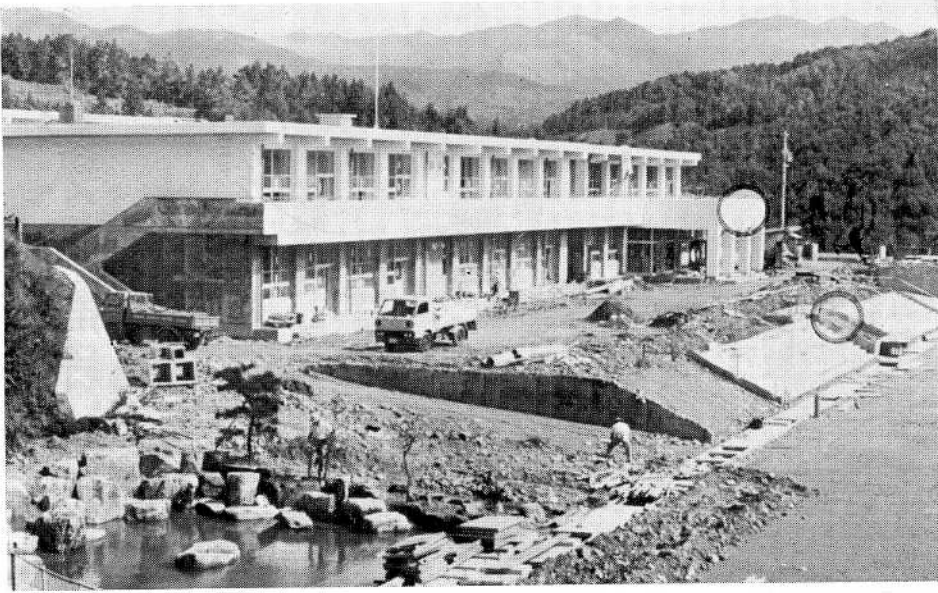
休けいに待ち合わせに

この部屋は単に図書室としての機能だけでなく、ホールと一体の設計ですから、各種集会の休けいや待ち合わせ、そのほか小グループの集会・サークル活動などにも気軽に使っていただける多目的なスペースです。利用ご希望の方は産業振興課へお申し込みください。

まだ開館したばかりで不備な点が多いですが、みんなの施設・みんなの図書室として有効に行きたいものです。

羽ばたく子供の未来も表現

東白川小の校章決まる



年内の完成を目指し、急ピッチに工事が進められている校舎
校章は○印の2カ所に設置される予定

校章作成委員会（野村正委員長）が主体となって進めていた、東白川小学校の校章がこのほど決まり発表になりました。

本来、校章は学校が作成するわけですが、今回の場合はまだ学校ができていないため、教育委員会がお願いした各小学校の先生、PTA代表者・教育長・社教主事ら十二人で構成する校章作成委員会が主体となって仕事が進められました。

有線・広報紙などでもお知らせしましたように、公募という方法はとらず、広く皆さんの意見を聞いて作成する計画を基本としていましたが、一部の新聞で公募という掲載があったため、村外からも作品が寄せられました。

村章にハナノキを

重ねてデザイン

校章作成委員会では、これ

らの資料を参考に第一回目の委員会を三月初めに開催。本村は茶の産地だからお茶の花を圖案化したら……というような意見も出されましたが、検討された結果村の木「ハナノキ」と村章を組み合わせたものという方向で圖案化することにまとなり、委員の一人千賀先生によって原図ができて上がりました。

その後少しずつ修正され、村章に村の木ハナノキの葉を重ねてデザインした下図のようになりつばな校章となり、教育委員会定例会を経て今回発表となりました。

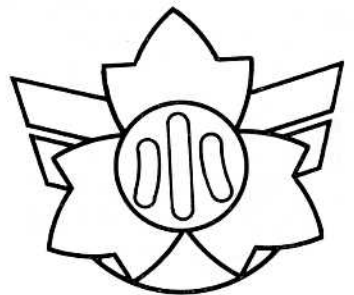
三枚の葉が

三校統合を意味

校章は、村の自然や文化を愛し、たくましい体力と気力を養い、自己を高め、豊かな情操を身につけ、力強く羽ばたく子供の未来を表現するものとしていきます。

とくにこのデザインで注目されるのは、ハナノキの葉が三枚ありますが、これは神土・越原・五加の三校が統合され、一つの輪を作ったという意味が含まれていることです。

年内の完成を目指して急ピ



ッチに工事が進められている校舎にも設置されることになっており、力強く羽ばたく子供の未来を表現したこの校章を末永く愛し続けてほしいと関係者は願っています。
校章作成にご尽力願った皆さんは次のとおりです。

校章作成委員長

神土小学校長 野村 正

校章作成委員

東白川中学校教諭

千賀 次男

PTA

古田眞之助

PTA

内本 みき

PTA

安江謙次郎

PTA

伊藤政太郎

PTA

桂川 敬言

PTA

今井 直樹

PTA

田口 光男

教育委員長

高井 好一

教育長

田口 博

社会教育主事

安江 啓次

八百人の観衆を魅了

復帰後二回目の郷土歌舞伎



多彩な顔ぶれで観衆を魅了した「近江源氏先陣館」のひとつ

昭和五十年、村の文化協会発足とともに誕生した東白川村歌舞伎愛好会（田口清会長以下会員数五十五）による、復帰後第三回目の郷土歌舞伎公演が九月二十四日、体育館で行われ集まった約八百人の観衆を魅了しました。

九歳から七十七歳まで

多彩な顔ぶれ

ことしの公演は、過去二回の公演に寄せられた皆さんからの強い要望に答えて日曜日を選んで開かれました。

出演者は、最高齢が神付の安江正史さん（七七）、最年少は神土小三年生の安江美和さん（九）、また、二十歳代の青年五人、中学生女子二人など幅広い年代層の多彩な顔ぶれをそろえました。

これは、歌舞伎といえばお年寄りのものというイメージが強いが、本村の場合はこれを打ち破って「だれでも希望者は入会でき出演することができます」という愛好会の呼びかけが実を結んだものです。

こうした多彩な顔ぶれで、観衆もこれまでとはひと味違った幅広い年代の人たちが集

まり盛り上がりを見せていました。

また、今回も歌舞伎公演成功の陰には、会員で裏方を務めた皆さんの力が大きかったようです。例年のように体育館のステージを広め、花道まで付け、大道具、小道具、舞台装置まですべて会員の手づくりによるりっぱなものでした。

鬼一法眼三略の巻など

いずれも熱演

午後一時、共演の東白川民踊クラブと本屋会による民踊「安来節」など十曲が披露され、この公演に花を添えました。続いて二時からは、いよいよ歌舞伎公演。「チョーンチョーン……」とかん高い木の音で幕が上がりました。

ことしの芸題は「鬼一法眼三略の巻」、「近江源氏先陣館」、「御所桜堀川夜討」、「菅原伝授手習鑑」で、いずれも熱演につぐ熱演で観衆を魅了しました。

◇ところで、ことしは午後一時からの開演にもかかわらず二時間前の午前十一時ころから、村内のお年寄りや子供たち、それに家族連れなどがぞくぞくとつめかけ場所をとったあと、和やかに話し合いながら昼食をとる光景が目につきました。

時間に追われることなく、この一日をゆっくりと歌舞伎見物で過ごそうという姿は、優雅ささえ感じられ、この郷土歌舞伎を末永く続けてほしいと願うと同時に、私たち観衆もより盛り上げて行く必要があるといえるようです。



共演の東白川民踊クラブも日ごろの練習の成果を披露
—体育館で—

老人パワーを發揮

盛大に第5回老人まつり



手につば付けて「なわなない競争」にちよう戦

九月十五日「敬老の日」に、もうすっかりおなじみとなった老人まつりが体育館で行われ、村内七つの老人クラブからお年寄り二百八十人余りが参加して盛大に行われました。

老人まつりも数えてことしで五回目、午前中練り広げられた運動会では玉入れやわからない競争、輪投げなどの競技が行われましたが、クラブ員らはほとんど毎年出ている人も多く比較的スムーズな進行で行われていました。催しの中には村長・議会議

員など来賓による恒例の似顔絵かきもあり、モデルとなった加茂福祉事務所福祉課長さんの特徴をとらえながらマジックを走らせる光景も見られ、このまつりに花を添えていました。

「お年寄りだから万一ケガ人が出たら」という関係者の心配をよそに、クラブ員

封筒・エフを作って長寿

村の最高齢者桂川さん

ことしも恒例の高齢者訪問が九月十三日に行われ、数え年八十八歳以上のお年寄り三十四人を村長が訪問し、記念品を贈って長寿を祝福し、これまでのご苦勞をねぎらいました。

ところで、ことしも最高齢者は陰地の桂川虎雄さん(六六)ですが、訪問したとき桂川さんは長寿の秘けつとして写真のような封筒とエフを作っておられました。

前回訪問したときにも、手先を動かすなど「適度の労働が長生きのこつ」といって割りばしを作ってみえました。高齡とはいえ自ら生きが

らは年を感じさせない「老人パワー」を發揮してのハッスルぶり、老いてますます元気という感じがうかがわれました。

運動会終了後は、待ちに待ったおちようし一本と弁当の屋敷会が行われましたが、これに先がけてこの日会場へ集まったお年寄りの最高齢者安

いを求め幸せな老後を送っておられる姿はほんとうに楽しい限りです。

ちなみに、写真の封筒とエフは新聞折り込みなどのチラシを利用したもので、エフにはちゃんと針金もついています。

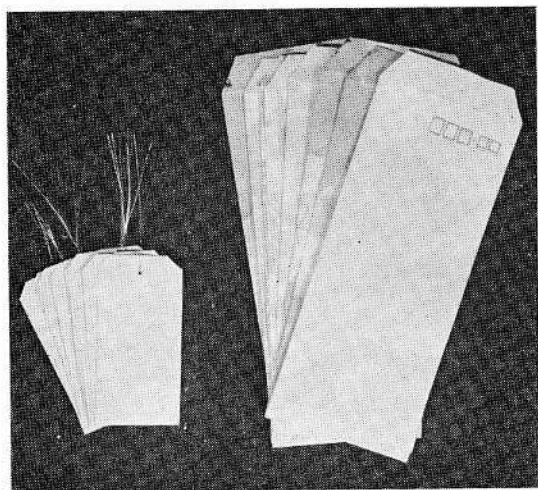
こうした廃品利用の手づくりのものは、だれにでもやる気さえあればできる

江貞一さん(日向八五歳)と安江ふでさん(上親田八五歳)に花たばが贈られ、長寿を祝福しました。

このあと、民踊クラブ木犀会の踊りや、にわか芸人の飛び入りなどでなごやかな一日を過ごしました。

ものです。

高齢化社会はかけ足でやってくるといわれていますが、今若い私たちにもいずれやってくる老後、桂川さんのようにありたいものです。



出残し の運動会



は「神土小賛歌」も演奏 一神土小学校で—

各小学校では、十月十日、ことしが最後となる運動会を行いました。

神土小学校は「閉校記念大運動会」、越原小学校は「秋の大運動会」、五加小学校は「さよなら運動会」とそれぞれ名称は違っていますが、各小学校とも例年より時間を延長して校下の消防団、青年団、老人クラブ、婦人会など各種団体による種目をプログラムに盛り込むなど、趣向を凝らした運動会となりました。

とくに神土小学校では、百年を超える長い校歴をたたえると同時に、この学校をこれまで支えて来た諸先輩への感謝、それに新しい学校への希望などをテーマに行いました。

また、廃校となる同小学校をたたえて作られた「神土小賛歌」を鼓笛パレードで演奏し、閉会式にはこの歌をみんなで合唱するなど最後の運動会に花を添えました。

◇ 本号では、この運動会をカメラの目でとらえてみました。



応援合戦も最後の年となれば力が入ります 一神土小学校で—



おじいさんやおばあさんの声援を受け力走するチビッ子たち

越原小学校で—

カメラレポート

かすかすの思い

各小学校で最後



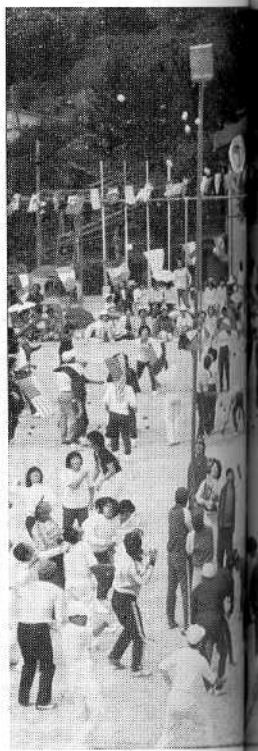
婦人会のお母さんたちも力一ぱいがんばりました

―五加小学校で―



鼓笛パレード

消防団・婦人会・中学生など多数が参加した越原小学校での玉入れ



昼間火災は私たちが……

五加婦人会が消火器講習

去る九月十三日、五加婦人会のとし二回目の支部学級が開かれ消防団員を講師に招いての消火器取り扱い講習会が行われました。

婦人会では「家庭婦人が教養を高め、地域の中でなにかに役立つ」とをテーマに、神戸・越原・五加の各支部単位で年三回ほど自主的な学級を計画しています。

五加婦人会では、この一環として「昼間の家庭を火災から守るのは主婦である私たちだ。それに台所をあずかる主婦として消火器の取り扱いについて学ぼう」と、消火器

取り扱い講習会を計画。

この計画を村の消防団に話したところ、消防団としても予防消防の見直しを呼びかける矢先だったことから、心よく引き受けられ今回の講習会となったものです。

◇

当日は、消防本部の予防部長をはじめ第二分団の幹部ら十人が講師として出席。宮代のちびっ子広場に準備された木材・石油・ガスなどに次々に火が付けられ、約三十個用意された消火器を使って実際に火を消す方法からはじめられました。

講師の皆さんの丁寧な指導のあと、実際に火を消すことになりましたが、初めて消火器を手にする婦人が多く、おっかなびっくりの腰つきで火に近づき消火する光景が目につきました。

講習が終わったあと、婦人たちは「家に消火器を備えていても実際の扱い方を知らず

油には油を……宮代ちびっ子広場で



にいた。ほんとうによい機会だった。「初期消火の大切さを感じた。」などと口ぐちに話し合っていました。

村ぐるみの予防消防が叫ばれている今日、家庭婦人が自ら学ぼうとして消火器の取り扱いを実際に体験したことは、大きな効果があったようです。こうした催しは、今回で終わってしまわないよう村じゅうで、また家庭婦人に限らず老人クラブなどでも行いながら、予防消防の気運をさらに高めて行く必要があるといえます。

季節の話題

季節の話題

自然の神秘「紅葉」

「紅葉前線」は、山から平地に急速にかけ下りる。春の「桜前線」がゆっくり北上するのに比べて、秋の「紅葉前線」は一気に広がります。

日本列島はモミジの種類が多い点では世界でも有数、天然のものだけで二十五種類もあるという事です。紅葉の美しさの代表は、葉が大きくて、てのひらの指にあたるギザギザが多いハウチワカエデ。それに庭木に多い、葉の小さいイロハモミジなど。

学者の話では、モミジの進化は非常におそく、現在みられる種類のほとんどは一千万年以上も前から変わっていないといわれています。

モミジがどうして赤くなるかは、クリサンテミンという色素が秋のモミジの葉の中にでき、これに伴い葉緑素がなくなるためですが、気温・湿度・日照がこれとどのような関係なのか、まだ解明されていないのです。



消防団員の説明を真剣なまなざしで聞く主婦たち



第11回村民ソフトボール大会 投げた・打った・走った

大口・西洞チームが優勝

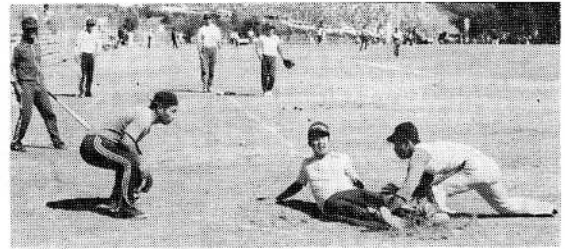
この秋最初のスポーツ行事として計画された、体育協会主催の村民親ほくソフトボール大会は、九月十六日総合運動場で行われ、二十三チームが優勝を目指して熱戦を繰り上げました。

当日は、午前七時三十分から開会式が行われ、選手代表上田捷吾さんの力強い宣誓のあと三コートに分かれてトーナメント戦が始められました。

熱戦が繰り広げられた大会のもよう

日常生活の中に適度なスポーツをとり入れ健康と体力の保持増進を図るとともに親ほくを深めようとするこの大会も一回目。各チームとも技術の向上が目立ってきていますが、いざ試合となるとミスや珍プレーが

アウトかセーフか？きわどいプレーも続出



続出し、中には両チームの得点を合わせて五十点を超える大打撃もありました。

大会は、選手・役員の協力もあって円滑に進められましたが、熱戦につぐ熱戦で優勝戦が始められたのは少し暗くなつてからの午後六時。

大口・西洞チームと柏本チームの間で優勝をかけた試合が行われた結果、優勝戦にふさわしい十一対十の接戦でこの大会の幕を閉じました。当日の成績は次のとおりです。

優勝 大口・西洞チーム
準優勝 柏本チーム
三位 平中チーム

私たちが病気になるたとき、何よりも頼りになるお医者さん。そこで今回は上手に医者にかかるコツをいくつかひろってみました。

「病気は〇〇だと思ふ」などという言葉は医師にとって心外な言葉です。それよりも今の状態や、気になる症状を要領よくまとめて話すほうがどれだけ治療に役立つかわかりません。

診療時間がわかっていながら、時間外や夜診察を受ける人が相変わらずあとを断ちませんが、自分の都合で医者にかかるのはよくありません。

信頼関係が決め手だれでもよい医者にかかりたいのは当然ですが、これは、家族の健康上の相談相手として、また、心の支えとして信じてかどうかと、患者側の心の問題でもあります。

暮らしと健康



賢い患者の条件

注射や薬をねだるな

最近では、注射による大腿四頭筋短縮症の影響により、注射をねだる人は減りました。薬や注射は医師が決定することです。患者さんにとっては、養生法をたずねるほうが大切です。

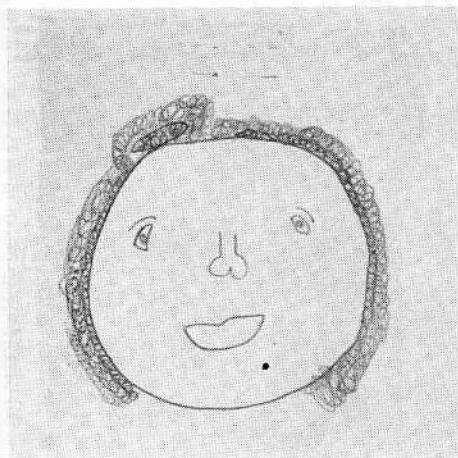
医者めぐりはダメ

二・三軒の医者をまわった話をよく耳にしますが、治療を中断するためかえって症状をわかりにくくすることが多いようです。どうしても医者をかかわりたい場合には、相談してかかわりましょう。

口にしていけない言葉

「ついでに診てもらおう」

似てるかな



わたしのおかあさん

越原小2年 鈴木 賀南子
陰地 鈴木英二さん 三女

おおかあさんは、カミソリのおしごとをしています。「かたがこったこつた」といいます。
わたしは、かたをたたいてやります。「きもちがいい」といいます。
ときどきかたをたたいてあげるから、これからもがんばってください。

この運動は、各市町村にある共同募金会によって推進され、民間の社会福祉に役立てることを目的としています。
皆さんからいただいた募金は、おもに老人や身体の不自由な方がたがおられる福祉施設に配分され、施設の改築などに充てられます。
小さな愛、ささやかな愛が

赤い羽根共同募金運動が、ことしも十月一日から行われています。

小さな愛・ささやかな愛を 赤い羽根「共同募金運動」



寄り合って福祉が大きく育ちます。昨年は、皆さんから本

村の共同募金会に目標額の十五万円を大きく上回る二十五万円余りが寄せられました。ことしは、目標額を二十万円に、この運動を推進していただきます。赤い羽根は各戸に配ってありますので、ことしもこの赤い羽根を胸につけて愛の輪を広げましょう。

暮らしのカレンダー

※第1回 歩け歩け大会

- ・とき 11月3日
午前9時～
- ・集合 神土・越原小学校

※第10回文化講演会

- ・とき 11月8日午後1時
- ・ところ 村民センター
- ※講師は、ベルリンオリンピックの金メダリスト兵藤秀子さん。多数ご参加ください。

※三種混合予防接種

- ・とき 11月8日
午後1時30分～2時
- ・ところ 東白川病院
- ・対象者 S50.10.5～52.9.30生まれの未接種者と追加

※不燃物収集

- ・とき 11月16日
- ※ガラス、金物を分けてお近くの集荷場へ。

※第10回村民親ほく卓球大会

- ・とき 11月18日
午前8時
- ・ところ 体育館
- ・対象者 一般
- ※多数ご参加ください。

※母子健康相談

- ・とき 11月21日
午前9時30分～
- ・ところ 村民センター
- ・対象者 3・4・5か月児と母

村美術展

- ・とき 11月22～25日
- ・ところ 村民センター
- ※村文化協会に所属する、手芸・絵画など6グループの作品を展示

※第4回芸能発表会

- ・とき 11月23日正午～
- ・ところ 村民センター
- ※民謡・詩吟・三味線など6グループが日ごろの練習の成果を発表

※中学校文化祭

- ・とき 11月25日
- ・ところ 中学校・体育館



有田さんから千羽鶴

天心白菊の塔に供えて

飛騨川バス転落事故の慰霊碑・天心白菊の塔へ供えて——と、上親田の有田はるみさん〔秋夫さん長女(19)〕から村へ千羽鶴が届けられました。

有田さんは、村へ帰るこの7月まで本巣郡の紡績会社へ勤めておられ、昨年春、“青春の思い出に”と千羽鶴を折って天心白菊の塔へ供えることを決意。それ以来、仕事を終えてから毎晩会社の寮で少しずつ、そして村へ帰ってからも折り続けこの9月までの1年半かかって完成したものです。

千羽鶴は広告チラシを利用したもので、50羽ずつ20本の带状になっており、一番下の止めにはボタンが使われています。また、風雨にも耐えるようにと、ビニール制のカバーもかけられています。

村では「事故で亡くなられた人のために」と、真心込めて作られた有田さんの意志に報いるため、秋の交通安全運動の初日、9月21日に天心白菊の塔に供えました。＝写真は天心白菊の塔に供えられた交通安全祈願の千羽鶴＝

民俗風俗あれこれ

社会生活



—村誌編さん室だより

〔二族制〕
苗字(名字) その一

苗字(みょうじ)は名字とも書き、名と字(あざな)である。古くは源・平・藤原・橘などのように、系統あるいはその集団を表わす名称を「氏(うじ)」と呼んでいた。さらには、その氏に含まれている個々の一族を呼び分けるため、例えば藤原の場合、その一族のうち近江に住む者を近藤、加賀の国司になったのを加藤と呼ぶようにその所領や居住地の地名をつけたりした。

また、佐藤(左衛門尉)、内藤(内居人)、武藤(武者所)などのように、官職からとった名を名字と称したという。

中世のはじめころから「苗字」と呼ぶようになったといわれ、「苗」という字は祖先から生まれる苗(なえ)、すなわち子孫という意味で、やがては大きくなって祖先と同じ氏に発展することへの期待が込められていたともいえる。こうして何世紀もの間に苗字はどんどん増えて、古代からの氏や姓(かばね)もこの苗字で代表されるようになった。

近世に入ると苗字は固定化して、分家も本家と同じ苗字を名乗るのが普通であったが、やがて幕藩体制が成立すると幕府は、苗字帯刀をもって武士の特権とし、百姓町人などの一般庶民には苗字をとなえることを固く禁じた。

ただ旧来からの郷土の家柄であった者や、庄屋・組頭・御用達などの役職を長年勤め、藩に対してとくに功労があったり多額の献金などによって、その身一代に限り「苗字御免」を許されることはあった。

今月の料理



白身魚のごま揚げ

- 材料—五人分— 白身魚— 三百g、洗いごま—白黒各1/2、卵—大一個、かたくり粉—大さじ五
- 生姜汁—大さじ一
- 酒—大さじ一
- しょうゆ—大さじ一
- 塩—小さじ1/2
- こしょう—少々

作り方 ①魚は六等分の拍子切りにする。△印の調味料に十分間ほどつけておく。

②とき卵の中にかたくすり粉を混ぜ、洗いごまをつけて油で揚げる。ケチャップソースなどを添え、生野菜をつけて食す。

さつまいものおいしい時期になってきました。そこで、チーズやレーズンなどを混ぜ合わせたむしろパンやスイートポテトなども作って手づくりのおやつで秋の味覚を食卓に。

